

市民アンケート調査概要

1. 調査目的

本調査は、計画の改定にあたり、市民の方の近所付き合いやボランティア活動、地域福祉活動等に関する状況や要望を把握するため実施しました。

2. 調査設計

種類	①一般市民	②民生委員・児童委員
対象	市内在住の18歳以上市民より 無作為抽出	全民生委員・児童委員
配布回収	郵送配布、郵送回収	民生委員・児童委員会議にて 配布・回収
調査期間	11月6日～11月27日	

3. 回収結果

種類	①一般市民(3期)	②民生委員・児童委員(3期)	計(3期)
配布	2,500件(2,500件)	140件(123件)	2,640件(2,623件)
回収	1,270件(1,321件)	137件(89件)	1,407件(1,410件)
回収率	50.8%(52.8%)	97.8%(72.4%)	53.3%(53.8%)

4. 単純集計概要

1. あなたのことについて

- 基本属性として、70歳以上が過去調査よりも割合が高い(問2)

2. 近所づきあいや地域での暮らしについて

- 地域での付き合いが必要だと思う人は10年前に比べ減少傾向(問10)
- 地域の課題は近所との交流が無いことが最多で約3割(問12)
- 約半数は困ったときに手助けを頼める人がいるが、1割弱は頼みたいがない(問13)
- 日常生活が不自由になった時に地域の人にしてほしいことは、全体的に過去10年間で割合が減少している項目が多い(問14)

3. 地域での活動について

- 町会等未加入は6割半ば(問16)で、その理由は町会が無いことやあるかどうか知らないが多い(問16-1)
- ボランティア参加経験がある人は1割半ば(問18)だが、今後の参加意向がある人は約4割(問19)

- ・参加経験がない理由は忙しいことや仲間がいないことなどが上位（問 18-1）

4. 福祉について

- ・福祉に関する情報源は広報紙が7割半ばで最多（問 23）
- ・困ったときに相談したい人は家族が約7割、友人や市役所が4割半ば（問 24）
- ・高齢者や障害者、子どもにとって住みやすいと思う割合は過去 10 年で増加傾向（問 27）

5. 「ほっとネット」について

- ・ほっとネットを知っている人は約1割（問 21）だが、重要だと思う人は7割半ば（問 29）
- ・地域福祉コーディネーターを知っている人は約2割（問 21）だが、相談してみたいと思人は4割半ば（問 30）
- ・ほっとネット推進員を知っている人は約1割（問 22）で、参加意向がある人も約1割（問 31）

6. 今後について

- ・住民参加の取り組みとして重要だと思うものは、地域での声かけや災害時に助け合う関係づくり、防犯活動等が上位（問 32）
- ・上記の取り組みを進めるために必要なものは、活動を支える協力者が約半数で最多（問 33）
- ・地域福祉推進のための優先施策としては、分かりやすい情報の提供が4割弱で最多（問 35）

※今後報告書として、性別・年代などのクロス集計を加えたものを作成し、次回の委員会でご報告させていただきます。